

SC-IB News '16.11 No.11

コミッショナー &事務局通信



スカウトミュージアムに展示されているスカウトキャンプのジオラマより



<http://www.scout-ib.net/>

◆ 標準団を目指すということ その10 「団の役目の再確認！」 “できるか できないか じゃなく やるか やらないか だ!”

最近、いろいろな会合に参加していますがそこで多くの方が声を大にして言われていることがあります。それは「スカウティングの本質」についてです。

それを聞いていて思い出したことがありました。それは、「Cadet」というサイトに2015.1.20に掲載されたものです。

**「学校の授業なんか意味ない」と主張する、
学歴至上主義の母親・・・**

塾講師が語る「教育の本質」が響く

ここ近年、教育に過敏になりすぎて、偏った方針で子供に接する親が非常に増えています。その一つの例が、「学歴至上主義」の教育方針。幼い頃からみっちり塾に通わせ、小学校・中学校の受験をし、有名私立学校に入学させる為に奔走する親も少なくありません。

そうした親の中には、「小学校の授業なんて、レベルが低くて子供にとって何の役にも立たない」と考えている人もいるのだとか。

実際に小学生の年齢くらいから子供を塾に通わせる理由の中で、「学校教育のレベルが低い」という理由が上位を占めているというアンケート結果もあります。

この話は、とある大手塾の入塾説明会で起きた話。親から塾講師への質疑応答の中で、一人の親が「小学校の授業なんか、意味はないと思っている」と発言したことから始まりました。

それまでにこやかに塾について語っていた塾講師。しかしその母親がそう言い切った瞬間、笑顔が消えました。

そして、その親に対して、教育とは何かと諭す様に、「一つのメッセージ」を伝えます。

**塾講師が語り終えると、意見した母親はありが
とうと言った**

その塾講師は、ゆっくりとした口調で語り始めました。

「前提として、これはあくまで、僕個人の見解ということをご理解ください。

子供が小学校の授業に参加することに意味なんかないという話ですが、僕はこれはそうではないと思います。

子供にとって、どんな教育が必要かを、一度考えてみてください。

おそらく、この塾の入塾説明会に来ている人は、子供の成績を伸ばし、良い学校に入れさせることが、良い教育であると考えていることと思います。

もちろん、私どもの塾も、成績を伸ばし、良い学校に入学させることを目的として事業をやっているのですが、これが重要であると考えているのは言うまでもありません。

しかし、塾と学校は、大きく役割が異なると思っています。

塾の役割は、とにかく試験やテストの成績を伸ばす事です。その為のカリキュラムを組み、



みっちり勉強を教えます。

しかし学校は、試験やテストの成績という限定的な要素だけを伸ばす場所ではなく、『**人間的な成長機会**』を与える場所なのです。

学校という社会で生きることにより、**人と調和をしながら生きることを学び、規則校則の中で生活することで、秩序の成り立ちを学ぶ。**

人の気持ちを感じ、社会の生き方を感じ、友情や愛情・喜怒哀楽の感情を育て、**未来を生きる上で必ず必要な『自我』を築き上げる場**なのです。

極論を言えば、子供の頃のテストや試験の点数なんて、将来を生きる上では、何の役にも立ちません。

皆様も、過去のテストの点数が、今の生活に左右されていると感じながら生きてはいけません。

しかし、**自我**というのは、人間の根底の部分になります。人に優しく、愛し、受け入れながら生きる事ができるか。社会に優しく、愛し、受け入れながら生きることができるか。

これができるかできないかで、将来の幸せは

大きく異なってくるものです。」

まるでその場の空気を全て吸い込む様に、その場にいた父兄を引きつけながら、淡々と語る塾講師。その言葉には、教育のことを真剣に考えているからこそ伝えられる、『重み』がありました。

「皆様が、子供を良い学校に入れたい、試験の点数を伸ばしてあげたいという気持ちはよくわかります。

しかしそれと同じ位、いやそれ以上に、子供の人間性を伸ばす事も重要なのです。

この塾では、試験やテストの点数を伸ばすことに全力で取り組ませていただきます。

でも、決してその表面上の数字だけで子供の成長を判断するのではなく、人間としての成長を、しっかり子供を見て、学校と協力しながら、育てていってほしいと思います。」

塾講師の方が話終わると、その場に居た人全員が、大きな拍手で講師のお話に応えました。

質問をした方も大きく共感した様に、「ありがとうございました」「私も頑張ります」と小声で答え、質疑を終えます。

有名校に入れたいと考える親は、子供に対しての評価を定量的な尺度で図ろうと考えてしまいがち。

しかし教育の中で一番大事にしなければいけない「人間性」をどこかに置いてきてしまうと、良い学校に入れる教育はできても、素晴らしい人間に育てるといって『子供の教育』という面では、あまり望ましい結果はでない様に思います。

子供にとって大切なものはなんなのか。それを今一度、子供の未来を考えながら、真剣に考えてみてはいかががでしょうか。

いかがですか？ 「学校」を「ボーイスカウト」と置き換えてみてください。そのままあてはまりません。学校教育はフォーマル教育です。ノンフォーマル教育であるボーイスカウトは、そのフォーマル教育では満たせない谷間を埋め、補完する立場にあります。スカウティングは「**活動的で自立したスカウトを育て、社会で役立ち、活躍でき**



る人材として送り出す」運動です。ご存知でしたか？ そのためには「『人間的な成長機会』を与え、未来を生きる上で必ず必要な『自我』を築き上げる」ことが大切であることは言うまでもありません。このように、学校教育と目的が一致しています。さらにボーイスカウトは幼年期から青年期までの一貫した教育によりそれをシームレスに展開できるという利点をもっているのです。

このように、ボーイスカウト活動は、単に子ども達に楽しい活動を提供するだけではありません。それは、スカウティングの方法として「スカウト教育の7つの要素」からなる独自の教育法によって、『楽しく、面白く、好奇心を刺激され、やってみたい、チャレンジしたい』という気持ちを、『もっと知りたい、もっとできるようになりたい、もっと高めたい』に発展させ、『仲間達と競い、協力し、助け合い、それを継続的に取り組んでの達成・成果』に導き、それを『共有し、分かち合い、成就させる』という一連の「人」を育てるプログラムとして提供するので。

それには、WB研修所、スキルトレーニング、WB実修所といったスカウティングならではの研修を受講し、修了することが大切であり、また必要になります。特にその活動プログラムを専門に扱ったWB実修所の修了によって、指導者のプログラムへの理解、そして展開力は大きく伸展します。そして、ようやくスカウト達が待ち望んでいて、かつ、このスカウト運動が求めている教育活動に繋がっていくのです。

今まで行ってきたスカウティングに疑問を感じ、スカウト達にもっともっと良いプログラムを提供しようと、本当のスカウティングを求めてWB実修所に参加する指導者が増えて来ました。とても喜ばしいことです。

このように、本当のスカウティングを展開するために研修に参加するには、団の理解と支援がなくてはなりません。

さて、団の最大の役目とはいったい何でしょう。それは「**地域に役に立つ『活動的で自立した』スカウトを育てておくりだすこと**」です。そのためには、そのスカウトを育てる「**指導者**」を育てなくてはなりません。**これが団が行うことの最も重要なことであり、基本**なのです。

県連ではいろいろな指導者研修を実施していますが、指導者それぞれの背景（団の実状・環境・個人の資質）は、それぞれ違っています。それを訓練機関で一律に対応することはできません。訓練機関では、その基本となる部分、共通する部分しか提供できません。だから、指導者の育成を訓練機関から団にしなくては、本当の意味での指導者の養成はできないのです。

そして、指導者を養成しただけでは「**地域に役に立つ『活動的で自立した』スカウトを育てて**



おくりだすこと』はできません。スカウトをスカウトとして育てて行くためには、班制度、進歩制度、野外活動を取り入れていかなければなりません。

特に「班制度（班制教育）」は、複数の班があって初めて効果が出るものです。本当のスカウティングをスカウトが享受するには、複数の班があり、その相互の関わりが必要なのです。そしてスカウトたちの年代特性に合わせた幼年期から青年期までの一貫した教育を提供するためにビーバーからローパーまでの5つの部門が必要なのです。

ですので、標準団、標準隊でなければならぬのです。この SCIB-NEWS の第1号に、『**全てのスカウトには、標準団における標準のスカウティングが提供されるということ**』と書いたのはこういうことなのです。

団を維持することは大変重要なことです。しかし、教育運動としての目的達成が困難な状態を維持し続けることは本末転倒です。

本運動の目的である教育を効果的に実施するために、団（団とは団委員会と各隊のこと）におかれては、次のことを十分に認識され、早急に解決に向けての本気の取り組みを開始していただくをお願いします。

- ①標準的な団（BVS 隊～RS 隊が存在すること）が必要であること。
- ②1コ班だけの隊では、本来の教育効果は望めない異常な状態であるということ。
- ③団委員会の目指すところは、標準的な団及び標準隊を構成することとそれを維持すること。
- ④標準隊を維持できない状態であれば、団の合併、合同隊での活動等あらゆる手段を用いて最大限の教育効果を上げる環境を提供するのが、団委員長のもっとも大きな責務だということ。是非ともよろしくをお願いします。

子どもの教育を真剣に考えているからこそ伝えられる、『重み』のある言葉で、スカウティングや保護者や地域の方々に伝えたいものです。そのためには、「やるか」「やらないか」なのです。

◆ ウッドバッジ研修所の改正と隊長ライセンスの導入 H29 年度より

来年、平成 29 年度から、日本連盟の指導者研修制度が変わり、隊長ライセンス（正式には「隊長として登録することができる」資格）が導入されます。ポイントは2つです。

1 つ目は、WB 研修所の変更です。

今までの課程（BVS,CS,BS,VS）別WB研修所はなくなり、「ウッドバッジ研修所スカウトコース」1本となります。今後、WB研修所に参加する指導者は全て「スカウトコース」に入ります。スカウトコースはボーイスカウト講習会を修了した指導者を対象に開設され、ボーイスカウトの指導者としての責務を果たせるように、スカウト教育全般に関する基本的内容を習得する研修となります。

では、それぞれの部門についてはどうするかというと、「ウッドバッジ研修所課程別研修」が新設されます。課程別研修は、各課程（部門）ごとに分かれて日帰りの研修となります。

課程別研修は、スカウトコースを修了した参加者が当該部門の指導者（隊長）としての責務を果たすことができるように、各隊の運営に関する基礎的な方法を習得する研修となります。

隊長の資格（ここでは「隊長ライセンス」と表現します）を取得するには、この両方を修了しなくてはなりません。

また、安全セミナーは H29 年度を以て廃止となり、スカウトコース本体に組み込まれます。安全セミナーを未修了の方は H29 年度に 1 度のみ開催しますので必ず受講ください。

2 つ目は、隊長に就任するには、任期を満たす隊長ライセンスが必要となります。

来年度から、隊長に就任するには、その隊長の就任期間を満たす、隊長ライセンスが必要になります。指導者が現在持っている隊長の資格（ライセンス）は継続されますが、隊長ライセンスの有効期間は4年間ですので、今後は、隊長を続けるためには「リフレッシュ研修（更新研修）」を受講し隊長ライセンスの更新をしなくてはなりません。これは、常に部門の最新の教育内容を取得するためのもので、前ライセンスの取得から4年以内に修了してください。

ちなみに「リフレッシュ研修」は、「課程別研修」と同じもので、それを受講することになります。リフレッシュ研修は、再来年度（H30 年

度）から実施になります。（課程別研修は H29 年度から。）

次に、現在の部門から他部門の隊長になる場合は、次の研修を受ければ、隊長ライセンスが取得できます。

○「スカウトコース」を修了している場合は →当該「課程別研修」を修了

と、今までのように再度WB研修所を修了しなくても良いことになりました。しかし、

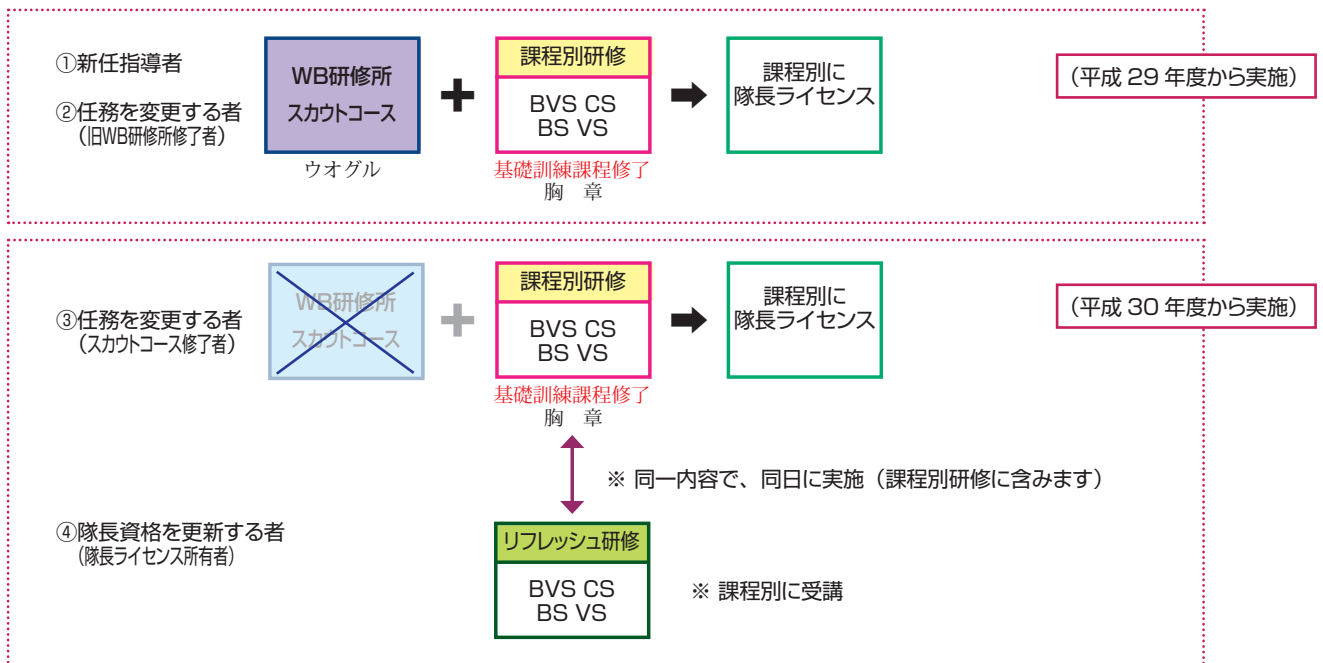
○旧WB研修所を修了している場合は →スカウトコース + 当該「課程別研修」

の両方の修了が必要となります。

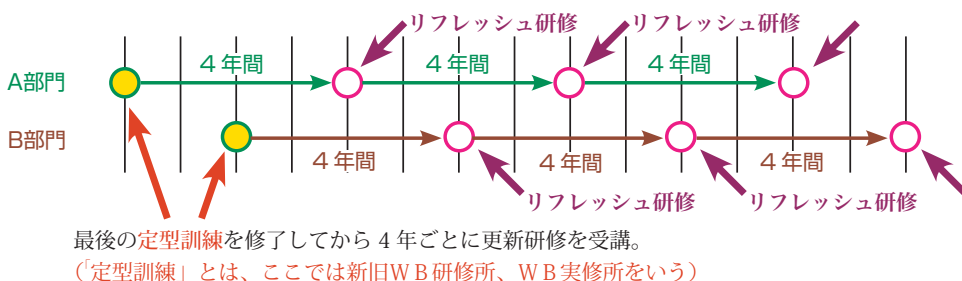
このように、スカウトコースを修了していれば、どの部門の隊長に任務変更となってもその部門の「課程別研修」さえ修了すれば、その隊長ライセンスを取得できます。

この就任期間を満たす隊長ライセンスの有無の確認は、登録審査の時となります。

今後、機会を設け、制度の詳細な説明をいたします。日時場所は、県連からの通知をお待ちください。



● 隊長ライセンスの更新イメージ



※複数の隊長ライセンス保持者は、それぞれのライセンス毎にリフレッシュ研修を修了する。A部門（緑：A課程）とB部門（茶：B課程）の両方のタイミングで受講

◆ ボーイ・ベンチャーの進級の一本化 H29.9より開始!

http://www.scout.or.jp/for_members/program/bvsv_new_program.html 日本連盟 HP 参照

■ ボーイ→ベンチャーの進級の一本化と進級課目の改定

来年、平成29年9月1日から、ボーイとベンチャーの進級制度及び進級課目が改定されます。

これは、日本連盟の重点目標である「活動的で自立したスカウトを育てる」ために、スカウト運動の一貫性、累進制の観点から、進歩の継続性を重視したものとするため、現行のボーイスカウト部門とベンチャースカウト部門の進級課程を一本化して、初級→2級→1級→菊→隼→富士の6段階とし、全ての進級章を取得して到達点である富士スカウトを目指す制度します。そのため、各進級課目を見直し、必修課目を中心に、その級の目標となる技能、知識を修得する内容に改定するものです。

■ 改定のスケジュール

平成 28 年 11 月 1 日 規程改正公示

平成 29 年 9 月 1 日 施行

平成 31 年 3 月 31 日 全国移行完了

■ 新進級課目の特徴

①ボーイスカウト部門からベンチャースカウト部門までの進級を一本化し、初級→2級→1級→菊→隼→富士の6段階とし、全ての進級章を取得して、到達点である富士スカウト章を目指す。

②各進級章の課目は、必修課目を中心に、その級の目標（右表上）となる技能・知識を修得する内容改定し、進歩の継続性を重視したものとする。

③各級の「進歩の目標」を明確にし、スカウトが各進級章を挑戦するにあたり、しっかりとし

た目標を定められるようにする。

④ターゲットバッジとマスターバッジを廃止し、現行の技能章をベースに改善、新設を含めた改定を行い、新たな技能章として選択課目を作り直す。

⑤各級の「ちかい」と「おきて」の細目は、最後に隊長と話し合いを通して考査し、その級の仕上げと位置づける。

⑥高校生年代から入隊する者は、スカウトバッジを着用し、初級から1級までの期間月を項目から削除した上で、初級から修得する。

⑦ベンチャー部門における初級から菊までの各進級時の班長会議での承認は、隊運営会議とする。

⑧進級課目の履修において、調整する級より上位の進級章細目を履修することは可能とする。ただし、ボーイ部門では、班長会議の承認が必要であると同時に、その上位の範囲は1級課目までとする。

また、進級自体は、ボーイ部門では菊まで、ベンチャー部門では富士までを段階的に進めることとする。

■ 選択課目

新進級課程における選択課目・技能章は、従来の意図するところに加え、よりスカウト技能の習得を目指し、考査員ではなく所属隊の隊長が認定できる技能章を追加（一部従来の技能章課目を見直し隊長認定技能章へ変更）することで、スカウト技能のより一層の充実を目指します。

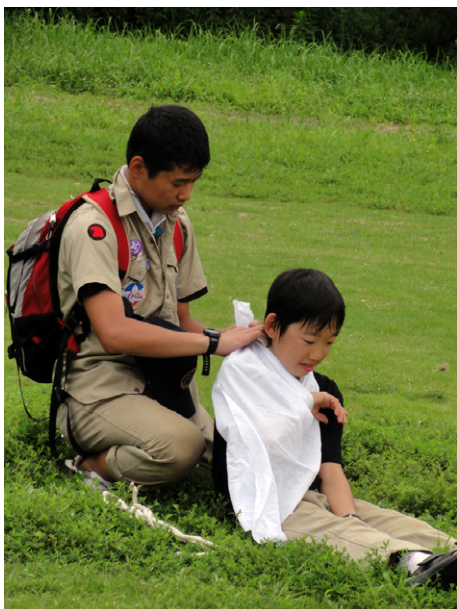
■ 移行のための隊集会と細目の読替え

移行に際してはスカウトの進歩状況の把握が必須となり、そのために「移行のための隊集会」を実施することが必要不可欠となります。

移行のための進級課目の読替表を後日提示しますが、読替表には新しい課目の一覧があり、スカウト自身が現行の進級課程で履修した課目をチェックすることで、対応する課程の細目を履修したとみなし、残りの細目に挑戦することで取得に繋がります。スカウトたちは新しい課目を知ることができ、なおかつ現行の履修状況が自分で確認でき、挑戦したいものを上げられるという利点があります。

■ 進歩の目標

進級課目	キーワード	目標
初級	仲間	初心者として、ハイキングやキャンプで自分のことは自分でできるようになる。
2級	ハイキング	班の中心として、ハイキングの計画・実施・報告ができるとともに、初級スカウトの指導者ができる。
1級	キャンピング	ボーイスカウトの活動の中心として、スカウトキャンプの計画・実施・報告ができ、スカウト技能全般を単独でできる。
菊	模範	自分の隊・班で積極的に活動でき、他のスカウトの良き模範として、班長や上級班長等、責任ある行動と指導ができる。
隼	冒険と奉仕	スカウト技能を役立てることのでき、ジュニアリーダーとして基本的な隊運営の知識を有し、健全なる体と精神を身につける。
富士	リーダーシップ	プロジェクトの計画・実施・報告ができ、奉仕の精神と社会の一員としての責任を持ち、社会貢献を果たせるリーダーとなる資質を身につける。



■ 隊長認定技能章と各級における必要な技能章（黄色地は必須技能章：9種）

新設	No.	技能章名	考査員認定	隊長認定	1級	菊	隼	富士
	1	野営章		○		○		
	2	野営管理章	○					○
	3	救急章	○				○	
変更	4	野外炊事章		○		○		
○	5	公民章		○				○
○	6	パイオニアリング章	○				○	
○	7	リーダーシップ章		○		○		
○	8	ハイキング章		○	○			
○	9	通信章		○				
○	10	計測章		○				
○	11	観察章		○				
○	12	スカウトソング章		○	○			

これ以外は、基本的に継続（細目の一部修正等あり）

◆ 指導者のつどい

10月2日(日) 土浦青少年の家・コミッショナーグループ主催

土浦の全国花火競技大会の翌日の10月2日、土浦青少年の家において指導者のつどいを実施しました。テーマは『スカウト募集～募集パンフ変身大作戦～』で、指導者21人、講師+コミッショナー15人、指導者養成委員会4人の計40人が参加しました。

写真の講師につくば1団の柏原一仁さんを迎え、県コミグループが講師となって、次の内容でつどいが進められました。

- ① 団・隊機関誌、募集パンフを見直そう
- ② 効果的な写真の撮り方
- ③ 募集パンフを作ろう
- ④ 団として整えておくこと、どのように配付?

詳しくは、参加者の感想文をご覧ください。

■ 指導者のつどいに参加して

副団委員長 Kさん

今回の講習会は、実にタイムリーな企画でした。

近年、我が団はカブ・ビーバーとも入団者が少ない状況にあり、そのためそれぞれの在籍数が一桁になっています。これは今までにない最大の危機です!!

2年前にこの状況を改善すべく団のホームページを立ち上げ、少しずつですが手ごたえを感じています。

しかし、これとは別にもっとたくさんの人たちに知ってもらうことも必要だと思っていました。それにはポスターやチラシの作成だ! という皆の意見が一致した経緯があり、そこに今回の講習会の開催案内があったので、早速参加の申し込みをしました。

今回、募集ポスターを作るにあたり知らしめる相手の最大のターゲットは「母親」と言い切ったところは目からうろこであり、この講習の明確、明瞭さを感じました。そして母親が一番多く立ち寄りところとしてスーパー(それもレジの前の所)というの一人の発想では出てこない場所だと思いました。



1~2秒で伝えられる効果的な情報や、アイキャッチとして文章だけのものの中に写真を使うことで引き留める効果のエッセンスになるという言葉にも納得させられました。

優先順位を決めること、視線誘導の原則を知ったうえでレイアウトを考える、マージンを決めてどう印象付けるか、フォントや色でより一層インパクトのあるものにする、等々。切り口が具体的にとてもわかりやすかったです。

また、外に向かってアクションを起こす前提には、団内での理念に則った安定した営みがあること、団の特色を打ち出しそれらを共有することなど、改めて日々の当たり前のことをおろそかにしないということを再認識しました。ポスター、パンフの効果的な配布の方法や配布後のフォローも大変参考になりました。

ポスターを作らなくちゃ! どう作ろうと迷っていましたが早速作ってみるぞーと思っています。

ありがとうございました。

■ 指導者のつどい「パンフ変身大作戦」

副長 Mさん

「パンフ変身大作戦!」という言葉につられ、自信はないけど参加しました。

ポスターの基本ルールを教わっていても、いざ形に置いてみようとするとうバランスのとり方がとても難しく大変でした。そもそも、カメラの操作でつまずき、撮り方でもつまずき、とうとう練習時間の最後まで思い通りの写真は撮れませんでした。

それでも、なんとなくもしかしたらできるかもしれないと思える楽しい時間でした。これを機にマンネリチラシから抜け出し、ポスター作りにチャレンジしてみようと思う元気をもらいました。

これまで、何も気にしないで見ていた紙ポスターも、作る側になってみると、人の気持ちの加わった、とても立体的な物であると知り感動しました。

そして、自分も「お母さん」でありながら忘れていた「お母さんの気持ち」を思い出しました。これからの見学会では、不安や希望も一緒におしゃべりできる環境になるよう、皆で協力して作ってきたいと思います。

でも、正直なところの一番の感想は、今回このつどいに参加したことで、自分の人生をより楽しくするためのヒントをもらい得たことです。ありがとうございました。



◆ ベンチャーのつどい

10月23日(日) 茨城県青少年会館・プログラム委員会主催

県連スカウトフォーラムは、フォーラムだけではなく、県連盟としてベンチャー活動の活性化の機会ととらえ「ベンチャーの集い」として、10月23日(日)に水戸市の茨城県青少年会館において開催しました。ベンチャースカウト24人、アドバイザー5人、指導者その他の20人の計49人が参加しました。181Cでのフォーラム以来の大人数の参加が得られ、大変有意義なつどいとなりました。

さて、今回のフォーラム&つどいのテーマは「防災⇒減災へ～あしたにそなえて、私たちができること～」で、ボーイスカウトとして

- ①個人ができること
- ②ボーイスカウトとして組織として取り組むこと
- ③企業・行政との連携

の3つのポイントから議論を進めました。

基調講演は当初、野上健治氏(東京工業大学理学院火山流体研究センター教授)に依頼したのですが、野上氏が現在活発に活動を続けている西ノ島の上陸調査に急遽派遣されたため、宮田プログラム委員長(県立下館第一高等学校教頭)が代わって基調講演を行いました。

フォーラムは、5年前の3.11で茨城も被災地であるのは、彼等の中でも周知の事実である。当時、受け身にならざるを得ない年代であった小学高学年の彼等が、この5年で培ったものは? 醸成されたものは? 現在の技能で出来ることは? これから成すべきことは? という流れ

での展開で意見が交わされ、次の3つの事項が採択されました。それは・・・

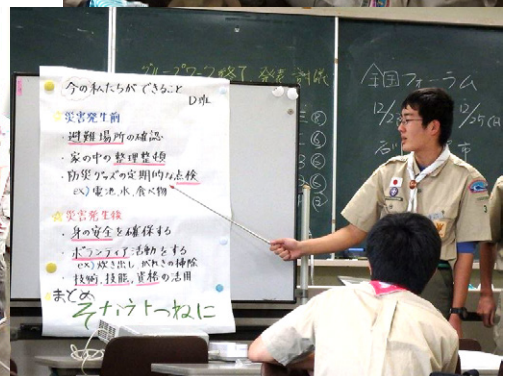
- ①個人ができること
 - ・救急法の取得など個人の技能の向上
- ②ボーイスカウトとして組織として取り組むこと
 - ・ハザードマップの点検(ウォークラリーの開催などを通した、地域との交流を兼ねた活動の促進)

- ③企業・行政との連携
 - ・SNSを使ったネットワークの構築

これを機に、より深く検討しスピード感を持ちながら、また、全国フォーラムの提言と並行して実施展開ができるよう、県内全VSの次段階への取り組みが期待されます。

また、このつどいの中で、県内VSが集まって「何かをしたい!」という提案がなされ、それが「ベンチャーラリー:雪中キャンプとスキー」という形で、早々にまとまり、11月6日には早速、各地区の代表スカウトが集まって、内容を煮詰めていくことになりました。このようなベンチャー部門の具体的な動きは、今までに無いもので、新プログラム委員会としても大変嬉しく歓迎するものです。最大限の支援をしたいと思っています。

10/25付で各団VS隊長に向けた「ベンチャーラリーに関するアンケート」が送られています。是非とも所属のベンチャースカウトに連絡&相談していただき、回答及びラリーへの参加を促していただきたいと思います。



Event Information

●日本ジャンボレット高萩 2017
 会期: H29.8.4 - 8.9 5泊6日
 テーマ: Stick to it! (最後まで頑張れ!)
 参加費: BS, VS (@35,000)
 BVS, CS (@2,500/日)
 その他: BVS, CS 近隣で舎営可能。

●第17回日本スカウトジャンボリー
 会期: H30.8.4 - 8.10 6泊7日
 場所: 石川研珠洲市(14NJ会場)
 対象: BS, VS (@40,000)
 ※原隊単位で参加可(スカウト+指導者)
 BSは大会参加時までに要2級進級

※詳しくは、別途、後日県連盟から文書で各団宛に通知されます。
 ※17NSJの参加形態は、単独団、近隣団合同、地区単位等を考えています。女性スカウトが参加する場合は、女性指導者が指導者として参加することが必要となります。